



春の訪れ(沼津虹の家)

## 介護保険法誕生秘話

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

平成十二年から施行された介護保険制度の歴史は、厚生省内に『高齢者介護対策本部』が創設された一九九四年(平成六年)に始まったと言われています。しかし、実際はそれよりも五年前の一九八九年(平成元年)に厚生省内に公の検討会として「介護」という名のついた日本初の国レベルの検討会『介護対策検討会』(厚生事務次官の懇談会)が発足していました。この中で初めて高齢者福祉・介護の財源として社会保険方式導入の検討の必要性が提言されました。

私は、この『介護対策検討会』に弱冠38歳の若さで高齢者福祉施設の現場の代表として委員に加わりました。この時のメンバーは、業界利益団体の代表ではなく、かなり斬新なメンバーであったかもしれません。朝日新聞論説委員の大熊由紀子さん、上智大学助教授の山崎泰彦さん、元厚生省老人福祉課長の古瀬徹さん、弘済ケアセンターの橋本泰子さん、老人保健施設の草分けの矢内伸夫さん、社会保障研究所の堀勝洋さんなど、税財源限界から社会保険方式の必要性を強調していた方がいます。私を委員に推薦してくださった方は、おそらく厚生省大臣官房政策課調

査室長荻島國男さんと古瀬徹さんのお二人だと思えます。

検討会の報告書には、家族介護から在宅サービスを利用した介護への転換、地域包括ケアシステムへの理念に繋がる「どこでも、いつでも、的確で質の良い24時間安心できるサービス」を、気軽に受けることができる体制を目指すべきである、「財源、制度については、公費、社会保険料、双方の組み合わせのいずれにするか検討をすすめ、国民の合意形成につとめること」などが提言されています。更に私は、この検討会で待ちの福祉行政から予防的福祉をはじめとした「攻めの行政」を提言しました。また特養などの老人福祉施設に様々な在宅福祉サービスの機能や在宅介護支援センターも併設し、地域のサービス供給拠点として機能することをお願いしました。今日多くの老人福祉施設が地域包括支援センターを受託運営することに繋がっていると考えます。

「介護対策検討会の思想は介護保険法の創設に繋がっていた」と言われています。平成が今年で終わりますが、介護保険スタートの年は、本当は介護対策検討会開催の平成元年であったかもしれません。

～平成最後の“はるかぜ”～

## 各施設の代表より 抱負の言葉

平成31年3月号の本紙は、平成最後の広報誌の発刊となります。本号では、7名の法人各施設、事業所の施設長、認定こども園の園長に、新年度に掛ける抱負をお願いしました。



伊豆中央ケアセンター

施設長  
堀内 和憲

伊豆中央ケアセンターは、今年で開設二十六年目になります。法人の中では二番目に古い施設ですが、開設当初より地域福祉に力を入れ、現在では乳児から、障がい者、高齢者までの事業を行っています。そのような中で一番の問題が人材確保です。事業の多角化を図ることと、働き手の減少の中で、ここ数年人材確保が非常に厳しくなっています。来年度「働き方改革」が叫ばれる中で、女性の進出、高齢者の活用、外国人雇用、また、個人のニーズに合わせた働き方などの様々な方策を検討しながら、雇用の促進に向けて取り組む、利用者や家族が安心できる運営を心掛けていかなければならないと考えています。どうぞ来年度もよろしくお願いいたします。



なかいず認定こども園

園長  
工藤 暢子

なかいず認定こども園も三年目になり、職員も園児たちも園での生活にも慣れ、落ち着いて保育ができるようになってきました。園の信条としている、豊かな地域の自然や教育力の中で地域に支えられ、連携し地域を愛し生きる力の基礎を培い「地域で育てる子ども達」を育てるを大切にし、恵まれた自然環境を生かしながら散歩などを取り入れ、地域の良さを感じ取り入れる教育に力をいれる。子どもの学びは遊びや生活を通して生まれるので、一人ひとりに寄り添いながら、安心して楽しく過ごせる環境作りにも取り組んでいきたいと思っています。また地域の人々にこども園を知ってもらえる取り組みも行っていきたいと思っています。



あまぎ認定こども園

園長  
関本 光泰

あまぎ認定こども園は、平成二十八年四月の開園から丸三年が経ち、運営も軌道に乗ってきたように思います。人口減が続く伊豆市の山間に位置する本園では、地域の出生数の減少に伴い、園児も減少傾向にあります。しかし、素晴らしい環境にある本園の強みに、最良の保育・教育を提供することを加えることで、「あまぎ認定こども園に子どもを通わせたい」と思ってください。保護者を一人でも増やしていきたいと思えます。また、介護職同様、保育・教育職も常に人手不足です。園における働き方改革を進めることで「あまぎ認定こども園で働きたい」と思ってもらえる職場にしていきたいと思えます。五月には新元号となる二〇一九年度、この三年間の経験を生かしつつも新たな気持ちでスタートしたいと思います。

### 沼津市立高尾園



施設長  
深沢 康久

昨年、日本国内は非常に多くの災害に見舞われました。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い再建をお祈り致します。今年、沼津市立高尾園が行っていただきたいことは、自然災害への対策マニュアルやBCP（事業継続計画）の見直しと強化、そして、災害にも強い地域共生社会の実現へ向けて、救護施設の特徴を活かした事業展開が真っ先に浮かんできました。

### プラム



施設長  
大城 栄一

利用者の登録数も三十人を超え、昨年十二月、定員二十五人を三十人とし新たな一歩を踏み出しました。利用者が増えたことによる「一人ひとりへの支援」がおろそかにならないように、職員の情報共有の徹底を図っていきます。

### あおばの家・もくせい苑



施設長  
山田 芳治

昨年四月より「もくせい苑」及び「あおばの家」の施設長として勤務し、早いもので一年が経過しようとしています。以前の役所生活では味わえない、経験を多くしています。特に、もくせい苑では、B型施設の利用者様が個々の特性を活かした作業をし、その終了後には達成感と喜びが生まれています。あおばの家では、生活介護施設での大変さに、職員が利用者様一人ひとりに適した生活介護と対応に寄り添って働いている姿に、感動を覚えました。

### 沼津虹の家



施設長  
小野 博信

沼津虹の家はあしたかホームとの合築による移転から七年目となりました。移転当時、十六名であった登録者数もこの四月には新たに三名の利用者を迎え、移転時の二倍を超える三十五名となります。新しい施設となった沼津虹の家では「利用者の居場所作り」を事業所目標に掲げ、生活介護事業のほか、土・日・祝日の営業や早朝・夜間の日中一時見守り支援、沼津虹の家における宿泊ライフサポート事業を各市町の委託を受け取り組んで来しました。

現在、八十一名のご利用者とともに行ってきた地域住民の困りごとへのお手伝いサービスや地元企業からの草刈り等の仕事の依頼など、地域との結び付きが深まっています。地域における現状の課題を整理し、その解決に向けて、救護施設が行える具体的な事業を計画し、一歩ずつ前に向かって実践していききたいと考えています。

両施設共に、利用者様が安心して安心して過ごせる環境づくりと、利用者様のご家族が平穏な日常生活を営めるように、職員一同努めていきます。

年々利用される利用者様は増えておりますが、利用者一人ひとりの抱えている課題やニーズも多様化して来ております。それについて職員全員で共有し、「明るく」「暖かな」「安全」「安心」「愛のある」沼津虹の家の五Aを大切に、猪年の今年も邁進して行きたいと思っております。

# 平成31年度 社会福祉法人春風会 事業経営方針

～春風会の保育・介護・福祉の  
ブランド力を高めよう～



(左) 第1回法人大運動会より  
(右) 企業内託児所ほっぼの子ども達

春風会では、平成二十六年年度のプレーゲあしたか、二十七年年度のプレーゲおおひと、二十八年年度のふらつと月ヶ瀬、二十九年のなかいず認定こども園まで、この四年間に保育施設、複合施設、地域密着型介護老人福祉施設の様々な施設整備を行って来ました。施設整備計画も一旦は落ち着きました。平成三十一年度は、将来を見据えた人材確保と育成に向け準備期間としていきたいと考えます。

## 長期的なビジョンに基づく 人材育成プロジェクト

法人は、昭和五十年代から小中学生を対象とする夏休み福祉体験を実施して来ました。多くの生徒・学生が高齢者や障害者とふれ合う機会を持ち、この体験学習を契機に福祉の学校への進学や、継続的なボランティア活動をする生徒・学生もありました。特に、今年度の新採職員採用状況を見ますと、採用された学生たちの大半は中学や高校時代に春風会の施設で実習や

ボランティア体験をしており、夏休みの福祉体験を通して青少年の健全な福祉教育の場として始めた事業は、結果的に福祉を支える人づくりの一助を担って来たと思います。二十年、三十年という長い年月をかけ蒔かれた種が実になったと実感できることでした。また法人ではこれまで、新人研修、三年目研修、リーダー研修、主任者研修など各種研修に力を注いで来ました。今年度は更に法人の次世代を担う中堅職員の育成プログラムと支援策、若手幹部職員養成に向けた研修体制の確立に取り組んで行きたい。人づくりは短期的に成果を求めるのではなく、長期的な視野を持って取り組んで行くことの大切さを改めて感じております。

## 子育て世代・年金世代への 支援プロジェクト

法人の企業内託児所ほっぼは、平成二十六年の開設以来、利用児も年々増加し、多くの子育て世代の職員に利用して頂いてお

ります。年度途中に育児休暇を明けて職場復帰を目指す職員にとって、子どもの預け先探しは大きな問題であると思えます。速やかに職場復帰を望む職員、職場の双方にとって企業内託児所は大きく機能しています。職員の子育て支援対策としての企業内保育所の整備については喫緊の課題であると考えます。また、妊娠中の職員や子育て中の短時間勤務の職員が出来る仕事、定年制の延長により六十五歳、七十歳の職員が出来る仕事など、現在行われている日々の業務の見直しとすみ分けを行い、それぞれの立場の職員の出来る仕事の業務分担を図ることで、職員の離職防止と定着化を進めていきます。

今年度も、春風会の保育・介護・福祉のブランド力を更に高め、地域からの信頼と期待に応えていき、働く職員一人ひとりが誇りと歓びと感謝の心を持って仕事ができるよう努めていきます。



# 平成31年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

## ① 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり

- (1) 利用者一人ひとりの人格を尊重した常に質の高いサービスを提供し、利用者・家族・地域・関係機関から信頼され、他に負けない施設作りを推進する。
- (2) 職員一人ひとりを大切に育て、職員が夢と誇りを持って、楽しく生き生きと働ける魅力ある職場、遣り甲斐のある職場作りに全力で取り組んでいく。

## ② 職員の研修教育・キャリアアップ制度の充実、資格取得への支援と福利厚生の充実を図る

- (1) 職員の人材確保と育成に全力を挙げて取り組み、職員研修・教育体制の充実を図る。
- (2) 一人がリーダーのチームではなく、全員がリーダーシップを発揮できるチーム作りをする。
- (3) 従来までの研修体系の継続、5年から10年目の中堅職員の育成プログラムと支援策を図る。
- (4) 法人の次世代を担う若手幹部職員養成制度の確立と法人幹部職員の研修体制の確立と充実を図っていく。

## ③ 職員のモラル・マナー教育を推進する

- (1) 「春風会職員の心得」を活用し、職員のモラルや人間性の向上に努める。
- (2) 法人の接遇委員会の充実・強化を図り、職員のモラルや接遇マナー教育を更に推進する。

## ④ 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進、在宅事業の機能強化

- (1) 利用者の生活の質が上がるような処遇改善と介護事故ゼロ・褥瘡ゼロ・オムツゼロ・拘束ゼロ、科学的介護と穏やかな看取り介護に向けた取り組み、職員のメンタルケア等について推進する。
- (2) 栄養部門は介護食や献立メニューの開発と配食サービスの拡充、クックチル調理法による給食方法の導入を検討する。
- (3) デイサービスの作業マニュアル作成とサービスプログラムの開発、「座るデイから歩くデイへ」、ノルディックウォーク等の普及による健康寿命の延伸、介護予防事業を推進していく。

## ⑤ 介護・保育・障害の福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る

- (1) 職員の健康管理・腰痛予防などをはじめ、IT化の推進、介護機器の積極的活用により福祉現場での負担の軽減、生産性の向上を図り、福祉の魅力発信を進めて行く。
- (2) 保育・介護記録の電子化、高齢者の見守りセンサーやベビーセンサーの活用、インカム無線機の導入など介護機器の積極的な導入、介護ロボットの活用、福祉現場の情報化・IT化を法人の全施設で推進する。

## ⑥ 法人職員の活性化と育成、65歳定年制と子育て支援・EPA等での人材確保対策を図る

- (1) 平成31年4月より定年年齢を60歳から65歳に引き上げ、70歳までの継続雇用とする。更には、75歳、80歳までの雇用形態の確立を目指し検討をしていく。
- (2) 結婚や出産等で一度退職した職員を職場に復帰できるように積極的な支援策を推進する。
- (3) 妊娠中の職員も安心して働け、出産後も職場復帰できる職場環境作りや企業内託児所の整備を推進する。
- (4) EPAによる外国人介護職員の確保と並んで外国人技能実習生の受入れを推進し、5年後、10年後に備えて外国人介護職員の確保と育成に努めていく。

## あしたかホーム



Mayumi Recital

平成30年 あしたかホーム  
～秋のコンサート～

平成三〇年十一月十八日(日) 十八時よりあしたかホーム「デイサービス棟にてあしたかホーム秋のコンサートを開催しました。昨年に引き続き、コンサートの歌手は、あしたかホーム入居職員の望月真由美さんで、利用者から信頼が厚く、法人のベストスマイル賞を受賞された介護士でもあります。また、もう一つの顔としてジャズシンガーとしてライブ活動も積極的におこなっています。

今回のコンサートでは地域貢献活動として快く出演してください、曲目も誰しもが口ずさんでしまう名曲から、雰囲気のある歌謡曲を自慢の美声にて披露してくださいました。

### コンサートに参加された方の声

コンサートには合計九十名程の地域の方、ボランティア、あしたかホーム利用者、職員が参加しました。特に利用者は、いつもお世話になって歌っている皆さんが心を込めて歌っている姿に感激されていました。望月さんも普段以上に感激されている利用者の姿を見てとても嬉しかったと話して下さいました。

参加していただいた地域の方々やボランティアの協力により素敵なコンサートが開催できました。今後とも地域のニーズに沿った地域貢献活動を企画し行っていきたいと思えます。



## 伊豆中央ケアセンター



簡単に出来る料理教室に参加しませんか  
～手軽な料理から介護食まで～

高齢者福祉施設に携わる管理栄養士として高齢者や料理に慣れない方が簡単に料理を出来る事で、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で元気に暮せるように予防を重点に考えた美味しく楽しい栄養教室を開催しました。今回はふれあいプラザにて伊豆中央ケアセンター管理栄養士と一般参加の二十名で行いました。その中で今回好評であった乳和食を紹介させて頂いていきます。牛乳を使用することによりコクやうまみが増して減塩効果が期待でき、牛乳が苦手な人にもお勧めです。乳清の炊き込みご飯はカルシウムもアップするので好評です。サバの味噌煮は牛乳を加えると臭みがとれまろやか



になり食べやすいです。後半は業者に試食を提供していただき召し上がりました。甘いおやつでもたくさんさんのタンパク質とビタミンが補給できると紹介されたみなさんとても参考にしていただけたかと思えます。今後も活動を続け、参加者が体験することで高齢者への情報発信の場として継続していきたいと思えます。さらに地域でのコミュニティの中心となるサロン活動等の栄養教室としての生活に役に立つ情報を伝え、調理活動を行い「食べたい」「食べてほしい」をサポートしながら閉じこもり予防、認知症予防につなげてきたいと考えております。

## 就労継続支援B型 もくせい苑



## 静岡のいいところぽーち 入賞

静岡県内の障害者福祉施設で作られた製品を審査する「静岡県授産製品コンクール」が開催され、もくせい苑の「静岡のいいところぽーち」が共同募金会会長賞を受賞しました。年々コンクールのレベルが高くなり続ける中で、今回は遠州綿紬を使い、帆布生地にジャパンブルーと呼ばれる藍染で色をつけ、パッケージには菲山反射炉、そして富士山の形をしたポーチが真ん中に鎮座する、まさに静岡のいいところを詰め込んだ商品を完成させました。十一月十七日に行われた表彰式では三名の利用者が出席し、少し緊張した面持ち

ながらも、受賞の喜びをかみしめていました。



「静岡のいいところぽーち」は現在、村の駅伊豆のへそ店で販売中です。今後は各地の旅館や観光地などに展開を考えています。お土産におひとついかがでしょうか？



## みはるの丘浮島



### 浮島祐紀会 様

開所時から毎月一度来園して、大正琴の演奏を披露してくださっています。懐メロや童謡を弾いて利用者と歌を唄ってくださっています。利用者も毎月の大正琴を楽しみにしています。

## 協力ボランティアのご紹介

みはるの丘浮島は、今後もボランティア様をはじめ地域の皆様のご支援をいただきながら地域と共に支え合える施設を目指していきます。



### ほほえみ 様

開所時から、毎月入所者のシート交換を行なっていたいただいています。三グループに分かれて来園され、利用者さまとも顔馴染みとなり、お話をしてくださっています。また、みはる祭りや納涼祭などのイベントの際もご協力いただいています。



伊豆総合高校との交流



平成三十年度五月から伊豆総合高校二・三年生の医療・福祉コース（選択教科）にて月一回授業を行いました。生徒達は実際に高齢者と触れ合う機会がなく机上の学習だけではなかなか理解が深まらないとの事。短い時間ではありましたが毎月触れ合うこと、楽しむことを目的に授業を進めました。触れ合いから自分達に出来ることを考え、十二月にはデイサービス忘年会にてゲームやダンスなどのレク

リエーションの時間を生徒達だけで行い、一月には高校に利用者を招く逆デイサービスを企画し調理活動などを行いました。いずれの企画も利用者様から大変喜ばれております。

生徒達の感想文から（抜粋）

『お年寄りとの触れ合いは常に笑顔を絶やさないと大切。お話しはその方のペースに合わせてなければ話が通じない。楽しんでもらうには考えなければ上手くいかない。』等々。

初めは何も出来なかった生徒達が感じた事を振り返り、成長していくのを利用者・職員共に暖かな目で見守ることができました。



トップワークス感謝祭への参加

平成三十年十一月十一日、積み木プロジェクトでお世話になっている『株式会社トップ・ワークス』の地域感謝祭トップ・ワークス祭に参加させていただきました。

積み木プロジェクトとは、トップ・ワークスから提供された角材を、高尾園の利用者が毎日ヤスリをかけて削り、完成した積み木を近隣保育園、幼稚園に寄贈する取り組みです。平成二十七年九月から始まり、四年目を迎えました。

トップ・ワークス祭では、積み木プロジェクトとして、積み木コーナーを設置しました。祭りに参加していた近隣の乳幼児から小学生まで、多くの子供たちが訪れ、オリジナルティあふれる作品を楽しそうに作って遊んでいました。積み木製作に携わっている高尾園利用者も一緒に積み木遊びを楽しみ、素晴らしい時間を共有することが出来ました。

また、今回は、高尾園バンド

モーリスも初めてトップ・ワークス祭に出演させて頂き、多くの観客の前で演奏を披露致しました。四十代から七十代までと年齢層の幅広いメンバーではありますが、それぞれが得意な楽器で演奏を行っています。施設内行事に留まらず、イベント慰問等も意欲的に行って参りました。トップ・ワークス祭では、四曲を披露し、秋晴れの空の下、来場の皆様と笑顔あふれる時間を過ごしました。





## 浴室に アートを



はらデイサービスセンターの浴室の壁には、見事な富士山が描かれています。これは原の、いや沼津市の宝と言っても過言ではない一人の高齢者が描いた作品です。その方の名は、横井弼（よこい たすく）さん。はらデイサービスの利用者様です。

横井さんはプロの画家として、国内のみならず、海外でも多数の賞を獲得されている方ですが、数年前にお身体を壊され長期入院されました。退院後はらデイサービスをご利用開始されて以来、はらデイのパンフレットの表紙、イベントのポップ、フロア正面に飾る千支の絵などを描いていただいたり、これまで様々な形でセンターの運営にご協力いただいております。

### 殺風景な浴室に富士山を

きつかけは職員の「脱衣スペース

## はらデイサービスセンター

すが殺風景。富士山の絵が壁に描かれてあれば、お風呂に入りながら楽しめるのに！」という気づきでした。

脱衣スペースの壁といっても大きなスペースです。世界的な画家に、しかも無償で作品を残していただけるとは到底思えませんでした。が、ご本人に相談させていただくと、まさかのご快諾！

今年度に入ってからすぐに描き始められ八カ月、ゆっくり時間をかけて描かれております。横井さんの独特のタッチと世界観で、どこか牧歌的な雰囲気のある富士山が表現されています。私たちが見ると「もう完成かな？」と思っても、「まだまだ。ここが塗れてないし、富士山の雪ももつと」と創作意欲は尽きません。

浴室に芸術作品があるデイサービスは、日本中探してもはらデイサービスしかないのではないのでしょうか？

機会があれば、横井画伯の作品を楽しみに、ぜひセンターへお越しください。



## 発表会

### みんな笑顔で

十二月七日  
のあまぎ認定  
こども園の発  
表会が行われ  
ました。

プログラム  
は年長組の合  
奏から始まり、  
乳児組の0歳  
児、一歳児、  
二歳児が登場  
です。開場か  
ら「かわいい」  
の声が聞こえ  
てきます。続  
いては幼児組の三歳児、四歳児、  
五歳児が合唱や合奏、ダンスや  
劇を披露します。年齢が上がる  
に従って内容も複雑になり、子  
ども達の練習の足跡や成長が感  
じられます。



ファイナーレは年長組の合唱。  
保護者の中には感激の涙を流す  
姿もちらほら見られます。  
こうして二時間半はあっとい  
う間に流れました。笑顔で帰っ  
て行く親子を見送る本園職員の  
顔にも満面の笑みが浮かんでい  
ました。

## あまぎ認定こども園

## 発表会

### 成長を披露

十二月六日と八日の二日間に  
分けて、発表会を行いました。

一日目は主に祖父母の方に観  
ていただきました。四月から親  
しんできたお話が劇遊びにつな  
がったクラス。ハロウィンごっ  
こを楽しんだ子どもたちから『お  
ばけが出てくるお話をやってみ  
たい』と、自分たちで台詞や歌  
を考えて独自の劇を発表したク  
ラス。給食の献立を食品分けす  
ることで、げんキッズに興味を  
もち劇遊びが始まったクラスな  
ど、遊びの継続を重視しながら  
進めてきました。

年長組がプロ  
グラムの紹介を  
したり、あやと  
りやけん玉の披  
露をしたりした  
ことも、自信に  
つながったよう  
でした。



## なかいず認定こども園

## もくせい苑 東芝テック様より 電子レジスター寄贈

もくせい苑では各種イベントを中心に、パザーを行っており、販売には電卓を使用しお客様を待たせることや、計算ミスをしないうち注意する必要がありますが、大変な作業でした。今回東芝テック様から寄贈していただいた電子レジスターはレシートが出せ、おつりの計算もしやすく、また一日の記録を残せるため、販売時にとても重宝しています。これからも地域貢献に有効活用させていただきたいと思っております。ありがとうございました。



## あしたか ショートステイ JA南駿農協様より 車椅子寄贈

J A南駿農協の女性部を中心に役職員も協力して、平成25年から5年かけて集めたプルタブ700kgと交換していただいた車椅子一台の寄贈を受けました。

平成5年から、県下のJ A女性組織で環境問題に関する活動の一環として、社会貢献や女性部員としての意識の高揚を図ることを目的に、プルタブの回収運動の取り組みがおこなわれています。

J A南駿農協の皆様へ感謝して、とても貴重な車椅子を有効に使わせていただいております。有難うございました。



## みはるの丘 浮島 静岡県交通安全対策協議会会長より 交通安全優良団体表彰



みはるの丘浮島は、昨年11月に、静岡県交通安全対策協議会会長から交通安全優良団体表彰を受けました。これは一昨年の平成29年度、静岡県安全運転管理協会における安全運転管理推進事業所として、職員はもちろん、地域住民に対しても交通事故防

止を呼びかける活動が評価されたものです。

主な活動は、安全運転リーダーを任命し、安全運転

管理者と協力して、交通安全研修等を開催し、職員の通勤時や業務中の安全運転に取り組み、交通事故を予防したこと、交通安全週間に、近隣小学校前で登校時の小学生や通行車両に、自治会役員の方と一緒に交通安全を呼びかけたり、施設行事で交通安全体験コーナーをもうけて、交通安全に対する意識の向上を図り、地域住民と共に交通安全を推進しました。



### ●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東稚路1742-1  
TEL (055) 967-1166(代) FAX (055) 967-3566

### ●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304  
TEL (0558) 72-8111(代) FAX (0558) 72-7297

### ●特別養護老人ホームぬくもりの里

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29  
TEL (0558) 76-6700(代) FAX (0558) 76-7511

### ●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3355(代) FAX (055) 969-3385

### ●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東稚路1742-1  
TEL (055) 967-2220(代) FAX (055) 967-3566

### ●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429  
TEL (0558) 76-6702(代) FAX (0558) 76-6702

### ●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL・FAX (0558) 76-6755

### ●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3  
TEL (055) 968-4510(代) FAX (055) 968-4511

### ●ふれあいデイサービス<デイサービス一般型>

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-3380(代) FAX (0558) 83-3380

### ●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽47  
TEL (0558) 87-1080

### ●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-2911

### ●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市足高156-1  
TEL (055) 921-5722(代) FAX (055) 921-5723

### ●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3382(代) FAX (055) 969-3383

### ●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地  
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

### ●地域密着型特別養護老人ホーム プレীগあしたか

小規模多機能型居宅介護支援事業所  
〒410-0302 沼津市東稚路1639-1  
TEL (055) 967-3400(代) FAX (055) 967-3401

### ●地域密着型介護老人福祉施設 プレীগおおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9  
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

### ●障害サービス ケアホーム なぎの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437  
TEL (0558) 77-1017

### ●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293  
TEL (0558) 77-1221

### ●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

### ●あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8201

### ●あまぎデイサービス<デイサービス一般型>

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

### ●就労継続支援B型 事業所プラム<障害サービス>

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

### ●プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

### ●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3  
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

### ●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ  
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

### ●なかいず認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1  
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

### ●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11  
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334